

# 泉岳窯

風だより

〇三〇号

泉ヶ岳  
陶の店  
無我久庵  
379-0506

## 猛暑の予感

ハンパネー  
トンデモ夏が来るかも??  
草々・  
樹々も初夏の様相



夏野菜  
販売価格百円(予定)



梅雨らしい日々から、天気は一転、その後夏日の連続。畑の作物も絶好調で生育中。連日来店のお客さまには好評で、用意する作物もアツト云々の売れ切れでした。山東菜・小松菜・水菜・赤カラシナと収穫する度にパリッ・パリッと心地良い新鮮野菜の音が、畑に鳴り響きます。

これからは、ズッキーニ・キュウリ・トマトそして秋からは高原大根が収穫期を迎えます。

時折、泉ヶ岳の裾野を散策しますと、クマ・イノシシ達の歩いたケモノ道の傍らからは、ネマガリダケやヤブワラビが顔をのぞかせ、梅雨から初夏の移ろいを報せてくれます。

早朝、泉ヶ岳の山奥に足を踏み入れますと、ケモノ道の傍らには彼等の大

無我久庵の栽培野菜は、安全無農薬・完熟有機栽培です。

そのために葉物野菜には、多少虫食いが出ることがあります。充分洗って頂ければ全く問題はありません。

トマト・キュウリの夏野菜に加え、南瓜・コリンキー・そうめん・ツルムラサキ・モロヘイヤの畑で交配・採種した、オリーブ・ナシ・リンゴも販売予定です。

晩秋にはキノコも販売予定です。

## 案内板

夏休み特別・得々コース  
7月～8月末まで開催



7月 夏野菜特別ランチ  
お食事メニュー(湧泉ざるそば)  
■夏を装ううつわ展  
陶芸得々コース8/31まで  
珈琲無料優待券贈呈  
窯出し作品即売

8月 秋野菜特別ランチ  
お食事メニュー(湧泉ざるそば)  
陶芸作品お渡し  
珈琲無料優待券贈呈

9月 山採りキノコ特別ランチ  
お食事メニュー(湧泉ざるそば)  
■錦秋を彩るうつわ展  
名月を愛でる宴企画

10月 秋菜の小鉢サービス月間  
お食事メニュー(和風ラーメン)  
陶芸作品お渡し  
紅葉ランチ企画

数年ぶりと、足跡が観られ、数年前とは違って、随分頻りにケモノ達も山裾まで活動範囲を広げて来ていることに驚かされます。

これからはヤブワラビ、コシアブラ、そしてクリ・キノコのシーズン。

例年に比べて数週間、山の季節は駆け足で早く訪れているようです。どうぞ！万全の支度でご入山下さい。

## 第十一回 会場 グリーンプラザ 陶房ゆとり炉展

7月3日～8日

陶芸教室の生徒さんによる作品展・陶房ゆとり炉展の準備も只今大忙しで進めております。陶房にお通いの会員・NHK文化センターの会員・仙台リビン館会員・旅行代理店会員の皆様による作陶展です。

七月三日から、東北電力グリーンプラザでの開催です。

「暮らしの中のうつわ」をコンセプトに多数の力作が展示されます。

要予約・夏の恒例  
陶芸&食事得々体験  
今年も開催 7/1～8月

陶芸体験 千五百円  
ランチ ドコース 二千円  
(陶芸体験とランチのセット)

ライコース 千八百円  
(陶芸体験とそばのセット)

●親子陶芸体験 二千円  
特待ドリンクサービス付き

自由研究で学校に提出の場合  
は早めの体験をおすすめします。



夏休み 要予約  
★ ★ ナイト陶芸  
★ ★ 星祭りおもしろ企画

夏休みの四日間(八月七日～十日)夜間陶芸体験会を開催します。七夕の思い出や、夏休みの思い出づくり、ナイト陶芸の体験はいかがですか。ご予約・茶会もお楽しみ頂きます。詳細は予約時に決定します。

## 四季詩々

新幹線もやがて青函トンネルにさしかかる頃、車窓を眺めながら、ふと農民詩人と呼ばれた、真壁 仁の詩を思い出しました。

北海道 美幌峠に立ち、時の感動をこう綴ります。

峠に立ち、とき、すぎ来し道はあかしく、ひらける道はたのしい……

この詩は、峠は決定を強るところだ……で始まる。詩集、峠の中にあります。

ゆられゆられる新幹線の中、自称 都会のマガギはその冒頭の一節を、ボケかた、た頭で思っておきました。

峠は決定を強るところだ  
風景はそこで綴じてあるが、ひとをうしなうことなしに  
別個の風景に、はいてゆけな  
大きな喪失に耐えてのみ、新しい世界がひらける  
峠に立ち、とき、すぎ来し道はあかしく、ひらける道はたのしい

マガギの記憶力もまだ健在かと安堵しつつ、車窓に目をやりますと、一つの風景と別れると、また新しい風景があらわれます。

車中のヒトは風景をつ失て、新しい風景に出会うわけです。

ヒトの世は失うものがあて、初めて新しいものに出会える事を車窓の風景が移り変わりをポンヤリ眺めながら気づかされました。

調べてみますと、真壁 仁は昭和初期、東北での大凶作を経験し、赤貧の中で文学活動をつけた農民でした。幾多の困難を乗り越え、美幌峠に立ち、来し方の日々を懐かしみ、そしてあたらしき時代に立ち向かおうと決心します。折しも終戦の混乱の昭和二十二年、真壁の云う決定とは、一つを選び、他を捨てる事だと説きます。

日常を離れ、ノンビリした妻との旅は、ボケかた、マガギの心にも、ステキな潤いを与えてくれました。



ゆとり炉無我久庵 泉ヶ岳山麓  
陶芸教室ゆとり炉 長命丘  
泉岳窯ゆとり炉 泉ヶ岳離宮